

優秀賞

## 私が失敗から学んだこと

京都教育大学附属京都小中学校 8年(中2) 白石 奈々

私は小学校三年生の時に、失敗を犯しました。私は小さな頃からたくさんのお稽古事をしていて、毎日、母が時間管理をしてもらっていました。でも、小学校三年生の時に「自分でできるから任せて欲しい」と主張して、それからは自分で計画を立てて日々過ごしていました。最初の頃はうまく行っていたのです。

「今日しなければいけないこと」を毎日確実にこなして、毎日五時間くらい自由時間がありました。その時間、私は買ってもらってすぐの3DSをしていました。母は最初のうちは、「大丈夫？後で困らない？」と聞いてきたのですが、私は「今日の分は終わってるから」と答えていました。その生活が数週間続きました。食べて寝てゲームして。毎日楽しいことばかり。今から思えば、なんて馬鹿なことをしていたでしょう。ある日少しづつ「やらなければいけないこと」が残っていくようになりました。それでも私は「大丈夫。すぐかえるから」と変わらずゲームをし続けていました。母は黙ってカレンダーに「借金〇時間」と記入していきます。それが、今では92時間になっています。「(宿題など)どうしてもやらなければいけないこと」は年齢が上がるごとに増えていくのに、帰宅時間は遅くなり、今私は借金を返すことなく睡眠時間を削って日々追われています。私は思い違いをしていたのです。私がすべきことは「今日(中に)しなければいけないこと」ではなく、「明日でもできるけど」今日(でも)できること」だったのだと。これが、失敗から学んだ私の信条です。

「権利と義務」という言葉があります。権利を主張するためには、義務を果たさなければいけない、という意味です。義務を果たしていない私の立場は弱いです。言葉が上滑りしていて真実と受け取られないのです。借金をすべて返し終えた暁には、私は自分の環境改善のために条件の緩和を求めて運動を起す予定です。頑張れ、私。